

## 地域文化財総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	香川県・三豊市	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	三豊市地域伝統文化活用活性化事業	【計画の改善時期】 平成 年度	
4 実施計画期間	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度		
5 実施計画の概要			
<p>第2期三豊市生涯学習推進計画（平成28年策定）を踏まえ、市民や地域に伝わる芸能に幼少期から親しむために保育所、幼稚園、小・中学校の学校教育活動と文化・芸術事業、文化財保護の連携を図ることを重点事業とし、そのために後継者育成のための講習会、用具修繕等に対し、その経費の一部を助成する。また伝統芸能の価値を再確認してもらうため、イベントなどに各地区の伝統芸能を招き、市民に公開する。</p> <p>少子化・高齢化が進む中、伝統芸能や地域行事を継承する担い手の育成が大きな課題となっている。地域の大切な財産である伝統・風習が次代に継承されるよう、市民・地域・学校・関係機関と連携し、担い手の育成とより多くの人が見る・触れる機会の拡充を図る。</p>			
6 実施体制			
<p>本事業については三豊市教育委員会事務局生涯学習課が全体計画の企画、文化財の取扱等に関する指導、各種事業実施に関する調整等を行う。</p> <p>また、事業の実施については三豊市地域伝統文化活用活性化事業実行委員会（委員長：峰久光正）が実施する。構成団体については別紙会則参照。</p>			
7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成30年度交付決定額： 2,965 千円	平成31年度申請額： 364 千円
(2) 実施事業の概要		別紙②のとおり	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
<p>伝統芸能の後継者育成に注力することを本計画実施の核とし、保育所、幼稚園、小・中学校の学校教育活動と連携し、幼少期から伝統芸能に親しんでもらうことで文化財を含む「地域愛」を醸成する。</p> <p>また、より多くの市民に無形民俗文化財を見る・触れる機会を拡充していくことは、地域の貴重な文化財を発見・保護する機運を高め、活動する後継者発掘の可能性が高まる効果が考えられる。さらに多くの観覧者を得ることが会員のモチベーションアップに繋がり、持続可能性が高まる効果が考えられる。</p> <p>讃岐源之丞保存会については、平成29年度からSNSにも取り組み、より広範囲に情報発信を行うと共に、明治30年頃に三豊市仁尾町の某所から人形を買って受けてきた歴史に鑑み、人形浄瑠璃が公演された記録の残る仁尾町内の神社において里帰り公演を開催している。</p> <p>観光客やインバウンドを呼び込むことを中心とした議論ではなく、「地元民が地元（伝統芸能）を愛する」気持ちなくしては、今後の伝統芸能も継続が難しいと考えることから、即効性はあまりないが、少子化・高齢化に耐えうる体制づくりを構築する。もちろん観光客が増加するのは地域活性化の観点からも喜ぶべきことである。</p>			
10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）			
事業概要：			
11 「文化財保存活用地域計画」の作成・認定や「文化財保存活用大綱」の策定、「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等			
文化財をその周辺環境も含めて総合的に保存・活用するために文化財保存活用地域計画の策定を目指す。			
12 担当部局			
地方公共団体 担当部局課	三豊市教育委員会事務局 生涯学習課		

## 7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分1:	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分1:	祭礼行事等の保存会会員数、保存団体数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標1:	讃岐源之丞保存会会員数の維持又は増加			関連事業:	事業①	
目標値1:	【現状値】平成28年度17人 ⇒ 【目標値】平成33年度20人					
設定根拠1:	高齢化により会員数が減少傾向にあることから、新規会員加入による維持又は増加と設定					
進捗状況1:	各年度, 状況値, 目標に対する達成率					
平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	
19人	19人					
67%	67%					
目標区分2:	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分2:	地域の祭礼行事等への入込客数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標2:	讃岐源之丞への観覧者数増加			関連事業:	事業①	
目標値2:	【現状値】平成28年度500人 ⇒ 【目標値】平成33年度600人					
設定根拠2:	チラシ・SNS等を活用して、観覧者数を約5%増加として設定					
進捗状況2:	各年度, 状況値, 目標に対する達成率					
平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	
500人	530人					
0%	30%					
目標区分3:	伝統文化の継承体制の維持・確立					
評価指標区分3:	祭礼行事等の保存会会員数、保存団体数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標3:	生里ももて祭保存会射手の新規加入者の確保(累計)			関連事業:	事業②	
目標値3:	【現状値】平成28年度1人 ⇒ 【目標値】平成33年度5人					
設定根拠3:	地域を巻き込んだ活動により、祭り離れの若者の新規加入を毎年1名で設定					
進捗状況3:	各年度, 状況値, 目標に対する達成率					
平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	
1人	2人					
0%	25%					
目標区分4:	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分4:	地域の祭礼行事等への入込客数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標4:	生里ももて祭への観覧者数増加			関連事業:	事業②	
目標値4:	【現状値】平成28年度300(単位) ⇒ 【目標値】平成33年度400(単位)					
設定根拠4:	チラシ・SNS等を活用して、観覧者数を約8%増加として設定					
進捗状況4:	各年度, 状況値, 目標に対する達成率					
平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	
300(単位)	330(単位)					
0%	30%					

## 8 (2) 実施事業の概要 別紙

事業①：	三豊市地域伝統文化活用活性化事業					実施団体：	讃岐源之丞保存会				
事業区分：	後継者養成					事業期間：	平成 29 年度 ~ 平成 33 年度				
事業概要：	三味線・太夫は年5回（1回につき2日間）、人形遣いは年5回（1回につき2日間）、講師を招いて地元の公民館にて讃岐源之丞の後継者養成事業を実施する。										
評価指標区分：	・保存会会員数の変化（維持）					（具体的な指標は次のとおり）					
具体的な指標：	高齢化により讃岐源之丞保存会の会員数が減少傾向にあることから、新規会員加入による維持又は増加と設定										
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 17 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 20 人										
進捗状況：	各年度，状況値，目標に対する達成率										
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度						
19 人	19 人	人	人	人	人						
67%	67%										
事業②：	三豊市地域伝統文化活用活性化事業					実施団体：	生里ももて祭保存会				
事業区分：	後継者養成					事業期間：	平成 29 年度 ~ 平成 33 年度				
事業概要：	射手加入後2年未満の後継者について、市内の射手指導者の指導の下、地元の会館にて4回程度実施する。参加人数は5名程度。										
評価指標区分：	・保存会会員数の変化（維持）					（具体的な指標は次のとおり）					
具体的な指標：	地域を巻き込んだ活動により、祭り離れの若者の生里ももて祭保存会への新規加入を毎年1名で設定										
目標値：	【現状値】 平成 28 年度 1 人 ⇒ 【目標値】 平成 33 年度 5 人										
進捗状況：	各年度，状況値，目標に対する達成率										
平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度						
1 人	2 人	人	人	人	人						
0%	25%										